

企画展・ふるさとの人物

●幕末の名代官●

# 江川太郎左衛門(坦庵)



江川太郎左衛門英龍 肖像

(複製)

## 企画展開催にあたって

三島市郷土館では、これまでも郷土史上の人物を企画展のテーマに据えて、その人物の事蹟や功績、あるいは彼が生きた時代背景などを通じて、私たちに身近な地域の歴史を見ようと努めてきました。

さて、このような郷土館の「人物シリーズ企画展」として、本年度取り上げた人物は「江川太郎左衛門(坦庵)」です。

坦庵は、葦山に生まれ、幕末の困難な時代の代官として国政(海防)に民政(領民支配)に優れた頭脳と才覚を発揮して、これを全うし、また科学者、文人としては種々の先駆的な成果と、多くの書画を後世に残しました。

坦庵の事蹟は余りにも多く、郷土館にとっては少々大きすぎる人物対象でもありましたが、そうした負い目を自認しつつ、なるべく坦庵という人物の核心に迫ろうと努力をしたつもりです。

本企画展が一人でも多くの市民の皆様のご高覧をいただき、郷土の人物を知り、歴史への認識を深めることの手助けとなれば幸いです。

今回の企画にあたり、江川家(江川英晴氏)をはじめ、江川研究の第一人者でおられる仲田正之氏、また貴重な坦庵の書画・資料を愛蔵されている方々、諸事にわたってご教示を下された方々には、計り知れない程のお世話になりました。末尾になりましたが、深く感謝申し上げる次第です。

## 江川太郎左衛門（坦庵）

江川太郎左衛門(坦庵)という人物を一語で表現する方法を知らない。代官、学者、文人(画家、書家)、教育者等々、どの部門にもふさわしくあてはまるし、また、その一部門だけでも十分に事足りるのだが、反面、坦庵の人物像全体を語るには不十分なのである。つまり、坦庵の持てる多方面に亘る才能の全てが収斂するところに、彼の真価が見えてくる。それほどに偉大な人物であったと言えるであろう。

坦庵は、享和元年(1801)5月13日、伊豆国田方郡の葦山屋敷に江川英毅の次男として生まれた。邦次郎と通称し、日々文武両道に励む少年時代を過ごしたが、長兄英虎の死により嫡子となり、天保6年(1835)代官に就任する。坦庵35歳のときであった。

江川家36世、江川太郎左衛門(坦庵)の葦山代官としての数多くの事蹟は、簡略化しては書き尽くせない。しかし、彼が代官として生きた幕末動乱の時代を背景として、その渦中で、日本歴史に特筆すべき江川坦庵の功績は見落とすことができないであろう。

坦庵誕生から代官に就任するまでの日本の国内事情は、相次ぐ外国船の渡来に、幕府としては決め手となる対策を持たず揺れに揺れていた。下田港をはじめ、江戸湾入口に位置する伊豆諸島などの海岸防御を必要とする重要な地域を支配下に有する葦山代官への幕府の期待は、こうした状況下、必然的に大きなものがあつた。

これを踏まえて、坦庵は勢力的かつ適格に事に当たり、その動静は腰の重い幕府にとっては尖鋭的に過ぎるとさえ考えられていた。

坦庵の動きを追ってみよう。天保8年(1837)、幡崎鼎の教示により伊豆防御策と世界情勢を建議。同年、渡辺華山と初めて面会。天保10年、渡辺華山より外国事情の建議草稿四点を受け取る。同年、外国事情に関する短文を提出。同年、伊豆国警備策を建議、この中で初めて農兵論を展開する。天保11年伊豆諸島支配を命じられる。高島秋帆の「天保上書」提出以後これを積極的に支持。

「機を見て敏」なる坦庵にとって、この間の国政の対応はどの様に映ったものであろうか。幡崎鼎の逮捕、渡辺華山の蟄居、後に自殺、高野長英の終身禁獄等々、坦庵が親しく交わり、共に国の未来を憂いた彼の同志たちは、次々と幕府の圧迫の下に脱落を余儀無くされたのだった。

国防という国の命運を左右する重大な任務を担う一方で、坦庵の科学への関心と研究心は止むことがなかった。国防の必要性を感じ、高島秋帆に入門、砲術を習う。兵糧・非常食に適していると見るや、柏木総蔵にパン製造技術の習得を命じ、自らはパン祖の称号を受ける。農兵採用を申請し、農兵に洋式訓練を伝授する。品川沖には、海上防御のための砲台、台場を築造。その砲筒、砲丸製造のため、葦山中村に反射炉を築造、わが国の科学的な鉄鑄造の先駆者の一人となる等々、坦庵の科学的な探求心の数々は一々取り上げていたら限りが無い。また、彼のこうした探求心の基盤には、国を思う愛国心が常に存在していたことを忘れてはならないであろう。

学問を愛し、また芸術をよくした文人坦庵の一面にもふれる必要がある。坦庵の才能は、父英毅の交友関係諸方面の学識者たちに見出だされ、育まれたものである。絵画における坦庵の師は、大国土豊、谷文晁であるとされる。特に文晁は葦山屋敷に逗留し、少年邦次郎の手をとって指導したという。坦庵が書き残した数多くの書画が、形式という束縛にとらわれない自由な筆法で描かれ、後年、文人画と称される範疇に分類されたのも、こうした文晁たち、秀れた師匠の影響によるところが大きかったのである。

幕末の動乱にもまして、波乱に富んだ坦庵55歳の生涯を通し、彼が好んで使った座右の銘は亡き母の訓戒である「忍」であったという。民政に、国政に、また学問、科学、教育、芸術にと、生きる情熱の全てを注いだ坦庵に、「忍」は、まさに相応しい一語に尽きると思う。



江川坦庵筆「銀鶏・木蓮図」



江川坦庵筆「草花図」



江川坦庵筆「舞鶴」

## 柏木総蔵（忠俊）

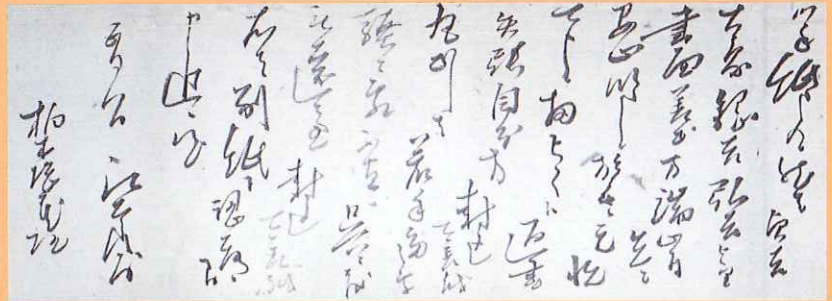
代官所手代柏木平太夫の三男として生まれた総蔵は、天保8年、14才の時、坦庵の中小姓兼書役見習となる。後、手代になり、江戸詰となり、坦庵の秘書的な存在として活躍した。

坦庵歿後、英敏・英武を補佐し、維新時には素早く朝廷に帰属して江川家を存続させ、葦山県大参事となる。

現在、葦山（山木）の柏木家には、坦庵公から総蔵に宛てた書簡が、多数残されている。



▲ 江川坦庵筆「焚火図」



柏木総蔵宛ての坦庵書簡 ▶



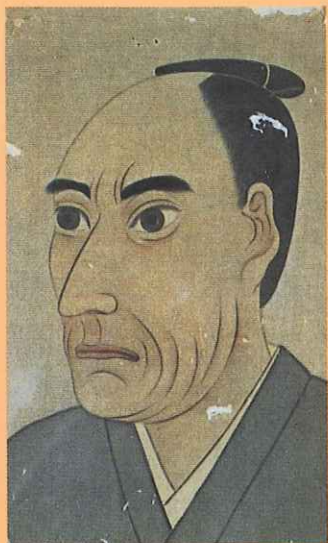
江川坦庵筆「張良図」



江川坦庵筆「関雲図」



江川坦庵筆「唐鮮人図」



江川坦庵坦公肖像



江川坦庵坦公肖像

## 反射炉

国防上、軍備の充実が急務とされていたことにもない、国内各地で製鉄のための反射炉の築造が相次いだ。

坦庵の反射炉は当初（嘉永6年）賀茂郡本郷村（現在の下田市）に築造が決定され、基礎工事が進められた。しかし、ここでの築造は途中で中止となり、田方郡中村字鳴滝へと場所替えとなる。折しも下田港へはペリー提督ら米国艦隊の入港があり、反射炉築造場所の移転は、軍事機密が洩れることを恐れたためであった。

安政5年（1858）、ついに葦山反射炉は完成。同3月30日、同反射炉製の18ポンド鉄製砲の試射に成功した。

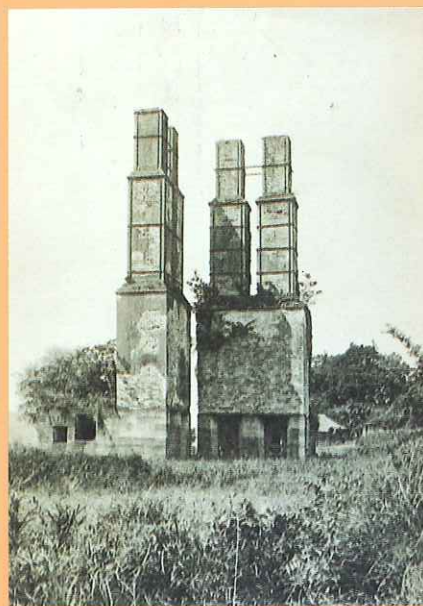
現在、葦山反射炉には鉄を溶かす炉だけが残っている。



葦山笠



砲丸



明治期の反射炉

## 高島秋帆と坦庵

秋帆は、頻繁に渡来する外国勢力に対抗する策として、幕府に西洋砲術採用の急務を建議した。

「天保上書」と称されるものだが、坦庵は、これを積極的に支持した。その後、坦庵は秋帆の主催する高島流砲術にも入門。

秋帆は、幕末日本にとって、必要不可欠な重要人物であったにも拘らず、幕府は彼を逮捕し、後には武州岡部藩に永預けとする。

## 谷文晁と坦庵

谷文晁は坦庵の絵画の師であった。

文晁は老中松平定信の海岸巡見に従って来豆し、蕪山屋敷に逗留し、少年邦次郎（後の坦庵）に絵画の手ほどきをしたと伝えられる。

文晁が手本を描き、邦次郎がそれを書写する方法であったが、ある時「模写でなく、生きた絵を習いたい」と申し出た邦次郎に、師は「生きた絵を描くには、先ず基本を学ばねばなりません」ときとしたという。

文晁のほか、大国土豊も坦庵の師匠として知られている。



高島秋帆筆「人生行楽書」



高島秋帆筆「梅樹図」



谷文晁筆「山水図」(四幅対)

# 江川太郎左衛門年譜

●太字は関係日本歴史

年次	西暦	年齢	事 蹟	年次	西暦	年齢	事 蹟						
宝暦	8	1758	江川英彰、伊豆・相模・甲斐支配六万石の代官を命ぜらる。英彰歿し11月4日、英征襲職	14	1843	43	1月18日、佐久間象山蕪山に到る						
	9	1759	三島代官廃止、蕪山に統合	弘化	3	1846	46	4月～6月、伊豆諸島を巡見					
寛政	4	1792	5月、江川英毅代官となる	嘉永	元	1848	48	3月24日、佐賀藩主鍋島直正と三島本陣に会す					
	10	1798	高島秋帆生まる		2	1849	49	5月、「農兵之義申上候書付」を提出 10月21日、鍋島直正と三島本陣に会す					
享和	元	1801	1	5月13日、英龍、伊豆国田方郡の蕪山屋敷に江川英毅の次男として生まる		4	1851	51	4月、下田警備の任を命ぜらる。 10月20日、鍋島直正と三島本陣に会す				
	3	1803	3	7月、望月直好忠死事件		6	1853	53	6月3日、ペリー浦賀に来航 8月2日、海防掛を命ぜらる。6日、高島秋帆を赦免し坦庵支配下とすることを許される。21日、一・二・三台場起工。11月22日、中浜万次郎を手附とする 12月13日、反射炉築造の命を受く。この月、蕪山に帰る				
文化	元	1804	前野良沢歿	安政	元	1854	54	1月16日、ペリー神奈川沖に来船 3月28日、吉田松陰密航を企て下田で逮捕される 4月3日、反射炉を田方郡中村鳴滝に移転することを申請即日許可となる。					
	5	1808	ロシア使節レザノフ長崎に来航		5月25日、下田条約調印								
	8	1811	間宮林蔵樺太探險		6月17日、ペリー琉球と修好条約調印								
	10	1813	2月、佐久間象山生まる		閏七月長崎遊学を願うが許されず、柏木総蔵・望月大象・矢田部郷雲を長崎に派し、スームピング号艦長に着発弾製法を問わしむ。								
文政	2	1819	13	5月、蕪山代官江戸役所の事務見習となる				8月23日、日英和親条約締結。新に長崎を開港 10月、反射炉東南炉竣工。					
	4	1821	19	高田屋嘉兵衛帰里、ゴローニン釈放 十二代将軍家慶に嘉千代誕生、嘉芳国音通ずるため通称芳次郎を那次郎と改む				11月4日、九州から東北までの太平洋沿岸で大地震発生。下田に大津波が襲い、ブチャーチンの乗艦ディアナ号大破。27日、ディアナ号回航途次座礁（12月2日沈没） 11月29日、箱根山中でディアナ号座礁の報を受け宮島村に急行。ロシア人の救助、戸田への移送を指示。この月五・六番台場、御殿山下砲台竣工					
天保	4	1823	21	6月25日、兄英虎歿す。 11月、嫡子となる				12月11日、出府の命により蕪山に帰着。この頃病勢悪化。					
	6	1823	23	8月28日、旗本北条氏征の女と婚姻す				1月16日卯の上刻歿す。					
天保	7	1824	24	3月28日、代官見習となる。 6月13日、初めて十一代将軍家斉に拝謁				2月1日・2日、品川台場備砲の上覧試射					
	11	1828	28	シーボルト事件				2月、洋式船戸田号完成					
	4	1833	33	母の訓戒「忍」を大書す				5月9日、英敏家督相続、代官・鉄砲方兼帯を命ぜらる					
	5	1834	34	3月27日、父英毅歿す				8月5日、アメリカ総領事ハリス下田に着任					
	6	1835	35	5月4日、家督相続、代官に就任。家例により太郎左衛門を襲名				3月30日、蕪山反射炉製18ポンド鉄製砲の試射に成功					
	7	1836	36	8月29日、郡内騒動の波及を阻止するため出発、武・相管内を巡視、窮民救済に働く				8月15日、英敏歿					
	8	1837	37	2月、大塩平八郎の乱 3月頃、「甲州徴行」を行なう。6月、支配下に怠惰・奢侈の厳禁、貯蓄励行の告諭を發す				12月、英武家督相					
	9	1838	38	9月23日、渡辺華山と初めて面会 甲斐国都留郡の当分預りを命ぜられる				10月、武・相・豆・駿の蕪山代官支配地に於いて農兵取立許可となる					
	10	1839	39	2月、代官羽倉外記伊豆諸島巡見 4月10日、華山は「外国事情書」を執筆、坦庵に送る				6月29日、幕府より離れ、伊豆・武蔵17万石余をもって蕪山県を構成。英武は県知事となる					
	13	1842	42	5月11日、華山来訪(最後の会見となる) 5月、蚕社の獄始まる。渡辺華山、高野長英逮捕 10月、書役柏木総蔵(16才)を公事掛に抜擢	文久	2	1862						
								慶応	4	1868			

## 葦山代官の支配高と支配地

代官の支配高や支配地は、変更や当分預地などがあるため、毎年一定したものではなかった。葦山代官の場合、10万石を越えることはなかったが、これに近い数字が支配地となっていた。表の支配高は、英龍が代官就任時の天保6年（1835）の高である。

また、葦山代官支配地は、伊豆3郡にとどまらず、相模、駿河、遠くは武蔵の国にまで及んでいた。（図参照）



現在の江川邸

国	都(県)	支配高
武蔵	多摩	石斗升合夕才 4,656.2.3.5.8.
	津久井(県)	5,759.8.5. 2.6
	足柄上	1,473.2. 7. 4
	足柄下	704.9 .3
	愛甲	632.7.5.3.7.7
	相模	998.7.5.7.3.9
	高座	4,235.6. 4.6.5
	鎌倉	368.3.6.9.
	大住	3,093.6.8.6.8.3
	〃	682.4.8.9.9.9
伊豆	君沢	4,199.4.2.2.5.3
	田方	2,545.7.9.3.4.
	賀茂	4,025.8. 3.9
駿河	富士	8,177.7.5. 6.
	東原	5,388. 9.5.
	庵原	7,574.9.5. 7.
(小計)		54,517.6.7. 3.5
武蔵	多摩	24,072.2.8.7.1.2*
(総計)		78,589.9.5.7.4.7

\*当分預

## 葦山代官支配地図



表・図とも〈参考文献〉『葦山町史』第六巻



坦庵公銅像（葦山高校内）



坦庵公墓（葦山・本立寺）

## 出品者一覧

(個人五十音順)

氏名	住所
安藤尊夫氏	葦山町
稲村宣氏	〃
江川英晴氏（江川文庫）	葦山町
宇野世章氏	三島市
柏木俊孝氏	葦山町
河合龍明氏	三島市
川口英男氏	〃
河辺哲彦氏	〃
河辺和年氏	〃
瀬川紀子氏	〃
関守敏氏	〃
小林善造氏	〃
高木長平氏	〃
土屋久男氏	三島市
仲田正之氏	葦山町
中野繁氏	清水町
沼上城山氏	三島市
樋口正智氏	〃
蛭海晴夫氏	〃
東京都品川区歴史館	東京都
静岡県立葦山高校	葦山町
葦山町教育委員会	〃
個人提供	沼津市

企画展・ふるさとの人物

● 幕末の名代官 ●

江川太郎左衛門(坦庵)

平成4年7月19日～9月13日

三島市郷土館

三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL (0559) 71-8228 FAX 81-3730